



## 「民泊」による安芸高田市の活性化

本市には、中世毛利元就の居城として日本百名城に指定された「郡山城」と、古墳時代前期（4世紀末）に築造された前方後円墳「甲立古墳」の2つの国史跡があります。また、伝統文化として、出雲地方の神楽が石見神楽を経て、江戸時代末期にこの安芸高田市（高宮町・美土里町）に伝わり、現在も22団体が活躍している「神楽」や、田の神である「サンバイ」さんに豊作を祈願する行事として、市内8地域において継承されている「田楽」もあります。さらには、トッピーグのサッカーJ1「サンフレッチェ広島」、ハンドボール「ワクナガレオリック」のマザータウンとして、選手が市内を拠点に活躍しています。これらの史跡・伝統芸能・スポーツは、本市の誇れる「宝」であります。この「宝」を活用した観光施策を展開してきましたが、観光客増加に向けて課題が残る昨今であります。

一方で、社会の状況変化により、これまでとは異なった価値観が生まれてきたことは事実であります。例えば、日本人を含め外国人の観光に対する概念が随分変わってきました。これまでの外国人の観光パターンは、高級ホテルに宿泊し、

京都・奈良・宮島・出雲大社等の日本の有名な地を見学し、秋葉原で電気製品を土産とするのが、定番でありました。しかし、本市の出身で、現在ベトナムで会社を経営されている社長とお話をする機会があり、ベトナム・中国・タイ・ミャンマー等での日本に対するイメージを聞いてみると、好感度が高く、日本への観光の目的としては、田舎の生活様式や日本の伝統文化に触れ、できれば民泊をしたいとの意見でした。

私は、以前から民泊を推進するため、国や広島県に対して、要望をして来ましたが、民業圧迫という事由から、修学旅行・農家体験以外では難しいという回答でした。しかし、平成30年6月15日から施行される「民泊新法」では、個人が所有する家や空き室を活用しての民泊が可能となりました。

私は、これまで本市の「宝」は、史跡・伝統芸能・プロスポーツ等と考えていましたが、これらに、古民家等での「民泊」や農家体験等を本市の「宝」として認識し、活用していくことが大切なことと思います。2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催され、多くの外国

人・日本人の移動が見込まれます。外国人を含む、多くの人に本市に来ていただき、民家等で宿泊し、郷土のご馳走を食べ、史跡を鑑賞し、祭り等の行事に参画するなどして伝統文化を堪能し、地酒を飲んでいただければ、最高のおもてなしになるものと確信しております。

この度、皆さまにお願いしたいのは、これまで、広島国体や神楽甲子園などで実施してきたボランティアの要素が強いものではなく、公共交通機関までの送迎や体験も含めたメニューに対する料金をいただき、旅行商品の一部として実施する営業的なものです。「民泊」を安定的に供給するには、市民の皆さまの協力が必要です。行政としましても、万一の事故等に備え、保険等を考えていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしく申し上げます。

